

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました
寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2019年度（第2回）女性研究者奨励金 受賞者

品川 令

明海大学 歯学部 助教

〔研究課題名〕

臍帯由来幹細胞を用いた再生医学的アプローチ
—早期顎裂閉鎖に向けた基礎研究—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究により、唇顎口蓋裂以外の歯槽部骨欠損の再建を目的とした歯科の再生医療においても多くの知見が得られ、今後の臨床に飛躍的な進歩が期待できると考えております。

本研究を実施するにあたり、研究助成を交付していただいた、日本私立学校振興・共済事業団ならびに関係者の方々に深く感謝申し上げます。

長嶺 章子

植草学園短期大学 福祉学科 助教

〔研究課題名〕

保育士養成研修のインストラクショナル・デザイン

－潜在保育士および保育士転職希望者を対象として－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金より助成を受けて実施した公開講座の受講者は、多様な経歴を持っており、今後は保育の現場で貢献しようと熱い思いを持った人たちでした。こうした高い学習意欲を持った人たちが保育の専門家として養成することは、わが国の子ども・保育・教育の未来を明るくすると思います。

本奨励金により、講座受講者以外の現職保育士に対してもアンケート調査を実施することができました。調査結果から、子どもと保育士の、音楽を通じたかかわりについての現状を知ることができました。また、回答からは、保育所の忙しい勤務の合間を縫って研修を受け、研鑽を積む、情熱を持った保育士たちが、常により良い保育・教育について試行錯誤を続ける姿が伝わってきました。

保育士の人材不足解消が課題となっている現在、このような人材の学習機会と環境を調えることはたいへん重要な課題であると認識しております。保育者養成校の教員として、学外の学習者とも研修を通じて関わりを持ち、包括的な人材育成に寄与する方法について検討し、今後もさまざまな取り組みを続けてまいります。

柴田 隆子

学習院大学 人文科学研究科 助教

〔研究課題名〕

フェスティバル文化の遺産を検証する
－〈移動性〉の観点からの考察－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回の研究テーマに掲げた文化における〈移動性〉の概念は、今後加速度的に進むであろうオンライン化の現状にあって、重要なキーワードになると考えています。

劇場での公演という従来型の手法を再考しなければならない現在の局面にあって、世界中で舞台芸術は様々な実験を重ねることと思います。

本研究で多様な文化圏のフェスティバルを通して舞台芸術のあり様を探ってきた経験から、情報収集とそのアウトプットはかなりの精度でできると自負しています。

オンラインでの表現手法やウェブサイトのプラットフォームとしての可能性など、現場に伴走しつつ国内外の情報発信にも努めていきたいと思っています。

楠原 淳子

東京慈恵会医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

思春期の年齢変化による卵子の質の検討

—エビデンスのある小児妊孕性温存療法を目指して—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

小児がんは治療の改良によりその生存率は改善し、将来の生活を考えられるまでになっている。

妊孕性（妊娠する力）は男女ともにライフプランの中で重要であり、がん治療によるその機能の低下が知られている今、可能な限り妊孕性を温存する方法の検討が必要である。

しかし通常、妊娠を目指す年齢の対象外である小児の生殖機能は未知である。

生殖分野の技術の発展とともに、小児を含めた妊孕性温存療法はがんサバイバーにとって大きな希望であり、同時に確かな技術への検証が必要である。

伝田 香里

順天堂大学 医学部 特任助教

〔研究課題名〕

ユニークな免疫応答調節に関わる糖鎖構造とアジュバントの探索

寄付者の皆様へ〔御礼〕

このたびは、女性研究者奨励金のご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

本研究の芽がでてから、このテーマでの公的研究費へ応募を試みるものの獲得できないという状況が数年間に渡り続いていたため、ほとんど心が折れかかっていたところに、今回のご支援をいただき、研究を継続することができ、本当に嬉しく思っております。本奨励金のご支援を受けたことがはずみとなり、2020年度には新たな研究費を獲得することができましたので、本研究の成果をさらに発展させていきたいと考えております。

現在、世界中が新型コロナウイルス感染の蔓延により、今まで当たり前であったことができない毎日となっております。科学者のはしくれとして、なにか少しでも社会のお役に立てることがあればと思います。本研究成果だけでは、まだまだ創薬までの道は遠いとは思いますが、少ない免疫回数で、素早い抗体応答を誘導できるような新しいワクチン開発に貢献できないだろうか・・・などと夢を膨らませております。

ぜひ一人でも多くの女性研究者が活躍できるよう、今後もご支援を継続していただければ幸いです。

山田 昭子

専修大学 文学部 助教

〔研究課題名〕

少年少女雑誌におけるスポーツ小説から見るジェンダー規範の考察

寄付者の皆様へ〔御礼〕

雑誌調査は主に資金面での負担が大きく、それは調査を進める上で決して小さなことではない。ことに、刊行年の長い雑誌を長期的にしかも複数調査する場合には、現実問題としてある程度のまとまった資金も要する。そのことが研究を妨げる理由となることも少なくない。

だが今回このような形でご支援いただいたことは、それまで停滞していた研究を大きく推し進めることとなった。改めて感謝申し上げます。

きっかけは「少女倶楽部」という一誌に限定した調査だったが、本研究を進めることにより、出版社の別、男女の別を越えた調査を通して、立体的になり、新たな発見を提示できたことは大きい。今はまだ一つの調査報告の段階ではあるが、以後は日本がスポーツをどのように受容し、来るオリンピックに向き合っていくのかについて接続していきたい。

藤原 優子

帝京大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

質量分析を用いたスフィンゴ糖脂質定量解析法の構築
—先天性代謝異常症診断への臨床応用に向けて—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究で新しく確立した、高速液体クロマトグラフィーと質量分析計を用いた糖脂質の測定解析方法により、糖脂質の機能を明らかにし、病態発生機序の解明が可能となる。そして将来的には、我が国において難病に指定されている極長鎖脂肪酸を含む糖脂質の蓄積を病因とする先天代謝異常疾患の新規発症前診断バイオマーカー、および治療マーカー、さらには、創薬ターゲットの発見が期待できる。

今回頂いた、日本私立学校振興・共済事業団 女性研究者奨励金に感謝し、先天性代謝異常疾患の病態発生機序の解明をさらに進めていきたい。

多田 美穂子

東京歯科大学短期大学 歯科衛生学科 助教

〔研究課題名〕

機能時の表情筋活動について

—ボタン引き抜き訓練時の表情筋の活動評価—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

超高齢社会となった今、特に高齢者の方々への対応に目が行きがちですが、健康に関するいずれの課題も、加齢によりもたらされるだけでなく、実は幼少期からの生活行動による影響が大きいことが伺われます。私共が専門としている歯周病に関しても、幼少期からの口腔への関心や正しい保健行動が重要であることから、幼児期から歯磨き習慣やおやつの食べ方、お口の健康を伝える努力を行っております。同様に口唇をしっかりと閉じることやかむ力を育むなども幼少の頃からの食事の取り方と大きくかかわりがあると考えます。

口腔周囲の筋力低下はお口の中の乾燥、飲み込む機能への障害など様々な健康問題を引き起こします。そこで機能低下を客観的に評価し、一般の方に自覚していただけるよう共通の指標を見つけていくことが大切です。このため、口腔周囲の表情筋の機能を生理学的に解析した研究は多くの方々が行ってきております。本研究もその一部を補う研究と考えます。今後も必要なデータを1つずつ積み重ね、他の研究者と共に、実用的な指標を作り上げたいと考えております。

矢ヶ崎 有希

東京女子医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

発達期の経験依存的な神経回路構築の分子基盤の解明
－細胞特異的な遺伝子発現変化の解析－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

自分が未来の科学研究の発展に携わり、役に立ちたいという思いは続いています。

私のこれまでの経験・知識・技術を最大限に生かしながら、現所属の理化学研究所安全管理部に
て、研究のサポートを行なっていく所存です。

小林 朋子

東京農業大学 農学部 助教

〔研究課題名〕

BLV曝露非感染牛が保有する感染抵抗性機構の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

牛白血病ウイルスは日本の乳牛および肉牛の半数近くが感染している、畜産業界にとって深刻なウイルスです。日本中に広がってしまった現状では、感染牛の摘発淘汰は現実的ではなく、経済的損失ができるだけ少ないウイルスの防除対策が求められています。将来的にBLV感染対策に寄与するように今後もこの研究成果を発展させたいと考えています。

萌芽的な研究内容であるにもかかわらず、本奨励金を頂けたことにより様々な方向から条件検討を行うことができ、かつ、良好な結果を得ることができました。

私事ではありますが、子供がまだ小さく、昔のように研究に没頭できる時間を思う存分持てず、業績に対する焦りばかりが募っている状況で、本奨励金を頂くことができ、落ち着いて研究を行うことができました。

今後も、様々なライフイベントにより業績面などで不利になりがちな女性研究者に対する助成にご支援をお願いいたします。

横田 幸恵

東京理科大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

Au-Pdナノリングを用いた光化学反応場の創成

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨学金をいただいて研究が滞りなく遂行でき、新たな課題や新しい現象を捉えることができました。

本奨学金に申請した時に私自身の任期期限が迫っており、さらに子育てと研究の両立の大変さを痛感しておりました。本奨学金をいただくことが決まったときは大変嬉しく、やはりアカデミックで頑張っていこうと大きな励みになりました。大変感謝申し上げます。

今後も若手研究者・女性研究者が研究を継続できるよう、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

角田（大津） 麻里子

日本大学 歯学部 助教

〔研究課題名〕

IL-1 α N 末断片の機能解析：定量システムの開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金のご支援いただき誠にありがとうございます。

研究のスタートを切ることができましたことを大変うれしく思っております。

本研究は基礎研究であり、これからこの ppIL-1 α がどのようなタンパク質であるのか、新たなる細胞学的知見を秘めているものなのか、さらなる研究を通して迫っていきたいと思います。昨今は医療分野で新しい技術が開発され、人々の役に立っています。そうした技術もたくさんの基礎研究によりその礎は築かれています。そのような基礎研究のさらなる発展のためにも、どうか継続したご支援のほどをよろしくお願いいたします。

私のように、助教を拝命したばかりでなおかつ基礎研究に携わっている身としましては、このように若手・女性に着目した支援の場があることは大変励みになります。

研究ははじまったばかりの段階ですので、さらに精進してまいりたいと思います。

日沖 敦子

文教大学 文学部 専任講師

〔研究課題名〕

17～18世紀の浄土教絵画と説話・物語に関する基礎的研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今年度、支援者の方々の温かなサポートによって、例年に比べ多くの研究成果を出すことができた。特に、一般の方々にも見ていただける形で最新の研究成果をブックレットにまとめることができたことは、大きな喜びでもあった。

このような研究ができる環境へと導いてくださった支援者の皆さまに心より御礼申し上げたい。

今後も研究が実社会に結び付く有益なものであることを確認しつつ、着実に進めていきたいと考えている。

今後も強い意志と希望を持った多くの研究者への温かな御支援を、何卒お願い申し上げる次第である。

築館 香澄

川村学園女子大学 生活創造学部 講師

〔研究課題名〕

ティーペアリングの科学的解明による茶と和食との相性の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

近年、食事中の飲料としてノンアルコール飲料を摂取する機会は多く、その際に茶系飲料が選ばれることも多くなってきた一方で、飲食店においてアルコール飲料が飲めない人に提供する飲料について考慮されていない場合が多く見受けられます。本研究の科学的根拠に基づいたティーペアリングの結果は、これまでの個人的意見と経験に基づいて行われてきた主観的なペアリングの表現だけでなく、客観的にペアリングした際の味わいの要素を示すことが可能となりました。これによって食事中に茶を飲むという新たなスタイルが提唱され、人と人とのコミュニケーションの広がりや、食のシーンを豊かにすることに寄与できる可能性があると考えられます。

ティーペアリングを科学的に明らかにするためには、茶と食べ物についての多くの分析が必要となり、全てについて分析することは困難ではありますが、今回、若手・女性研究者奨励金の研究助成を受けて多くの分析を実施することができ、ティーペアリングの科学的解明に向けてスタートを切ることができました。ティーペアリングの研究の難しさと楽しさを知る大変貴重な機会を与えて頂き、深く御礼申し上げます。

甲斐田 きよみ

文京学院大学 外国語学部 助教

〔研究課題名〕

ネパール農民の性別役割分業とジェンダー規範の認識に関する研究



寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金によりネパールでの調査を実施することができ、ネパール農村を訪問し農家世帯の暮らしに触れ、ネパール農村におけるジェンダー研究をスタートさせることができました。

また、本調査で得た知見をゼミナールの学生へのフィールドワークのプログラムに活かすことができました。

今後も、ネパール農村のジェンダー研究と学生のフィールドワーク、さらに在留ネパール人と学生の交流の場を繋げていきたいと思えます。

本研究を遂行するにあたり、ご支援いただいた皆様に、深く感謝の意を表します。

佐野 香織

城西大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

水産資源を守る卵膜の構造進化の理解



図2. マイクロインジェクションの様子

寄付者の皆様へ〔御礼〕

女性研究者奨励金をいただいたことによって、これまで頭の中で構想していた研究に実際に踏み出すことができました。

1年間の研究で、明らかになった結果はごく一部ではありますが、本助成金が本研究テーマを進める推進力となったことは間違いありません。得られた研究結果をもとに、今後もこのテーマを継続してゆくつもりです。

魚類の卵という、日本人にはなじみ深いテーマを扱っていることから、例えば、イクラや数の子などをちょうどよい食感にする事や、卵膜の厚さと孵化までの時間には相関があることから、早く孵化する卵の作成など、水産や食品業界への応用もできればと考えています。

その一方で、昨今、基礎科学も応用研究と同じくらい重要であることも再認識されてきています。卵膜形成機構についても分子レベルでメカニズムを解明することがとても重要であると考えています。

基礎研究を対象とした研究費はなかなか獲得が難しいですが、本奨励金はそのような研究をさせてもらえる貴重な奨励金だと思います。

寄付をいただいた企業や個人の方々に還元するために、今後も研究に精進し、様々な形で社会に貢献してゆきたいです。また、大学教員という立場でもありますので、若い世代の教育にも力を注いでゆきたいです。

今井 淳子

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 助教

〔研究課題名〕

育児中の看護系大学教員のワーク・ライフ・バランス
－コンフリクトとエンリッチメントに着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私自身、育児をしながらの教育・研究活動において、どうしても比重が教育の方に傾くことが多く、研究時間の捻出に苦慮している状況です。しかし、今回いただいた研究の機会をチャンスととらえ、普段ではあきらめてしまう、研究時間の捻出にチャレンジすることができました。

そして、若手・女性研究者奨励金による研究を遂行していくなかで、育児をしながら教育も研究も担い、活躍されている多くの看護教員の方々、また、看護系大学の学部長や学科長の方々より、本研究への期待と激励をいただくことができました。

また、看護の分野に限らず、さまざまな分野において活躍されている若手研究者の方、女性研究者の方々と交流することができ、刺激をいただきました。この経験より、同じように育児をしながら活躍されている方々との交流の機会を設けていくことが、若手研究者や女性研究者の研究推進につながるのではないかと思うので、その点の介入研究をしていければ、と、夢が膨らみました。

本研究の意義をご理解いただき、研究助成をご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団および関係各位に心より御礼申し上げます。

杉山 明子

朝日大学 歯学部 助教

〔研究課題名〕

エピゲノム解析による口蓋裂の予防的治療法の開発の研究
－エピジェネティクスの新たな可能性－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

2019年度女性研究者奨励金に採択いただき感謝申し上げます。

大学院での専攻とは異なる分野で職に就いたことで無力さや研究資金を獲得できないことで焦りを感じていました。

奨励金をいただき、贈呈式・懇親会で支援者さまや目標に向かって研鑽を積んでいらっしゃる研究者の方々と交流することができたことは大変励みになりました。

口蓋裂の患者は口蓋裂の治療だけでなく、耳疾患による聴覚障害、鼻咽腔閉鎖不全による構音障害などで複数の診療科で長期間、治療を行わなくてはならず、負担は非常に大きいです。口蓋裂を薬理的に治療できれば患者のQOLが向上します。薬理的な治療法の開発を目標に本研究を継続して行い、研究成果を発表することで社会に貢献していきたいと思っております。

本多 祥子

静岡福祉大学 社会福祉学部 助教

〔研究課題名〕

がんサロンの患者を対象とした坐禅による自律神経バランスの変化

寄付者の皆様へ〔御礼〕

「人のためになる仕事につきなさい」という恩師の言葉をきっかけに、“人のため”とはどういうことなのか、そのためには何が必要なのかの探究が始まり現在の研究に至っています。

終わりの見えない問いの中、苦難の連続だった私に手を差しのべてくれたのが「女性研究者奨励金」でした。

本研究に関心を示していただき、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団ならびに寄付企業様には心より感謝申し上げます。

また、本研究を通して、研究協力いただいた被験者の方々や関係者の方々の温かい気持ちや期待の思いに触れることができ、研究へ取り組む意を新たにできました。皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、研究成果というかたちで恩返しができるように、今後も“人のため”になることを考え続け、社会に貢献できるよう研鑽を積んでいきたいと思っております。

今後ともご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

横江 彩

中部大学 工学部 講師

〔研究課題名〕

生理的弱者に対する熱中症対策の研究
－暑熱順化と設備的側面からの検討－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金による支援を受けさせていただいたおかげで、自身の核となる研究テーマのうちの1つが固まり、今後社会に向けて価値のある研究結果を出していく姿勢を修得することができました。
ご支援に感謝いたします。

阿部 亮子

同志社大学 法学部 研究開発推進機構 助教

〔研究課題名〕

軍の行動原理とケースの関連に関する研究
—米国海兵隊の先進戦争大学に着目して—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

現在、東シナ海や南シナ海への中国の海洋進出やトランプ政権の中・ロとの競争への国防政策の見直しにより、インド・太平洋地域の戦略環境は急速に変化している。

中国は、伊豆諸島から小笠原諸島、グアム、サイパン、パプアニューギニアに至る第二列島線への戦力投射能力の構築、尖閣諸島周辺での艦艇の活動を常態化、「東シナ海防空識別区」を設定など、日本周辺での海洋活動を活発化している。

また、中国は、ベトナムやフィリピンなどと領有権を巡って対立している南シナ海の島嶼の軍事拠点化を進めている。

日本は独自の対応をとると共に日米同盟の枠組みで、これらの諸問題に対応している。安全保障問題を理解するには、短期的な情勢把握と共に、現象を理解・分析するための理論や歴史の知識も必要となる。

今後も、安全保障問題を分析する際の概念枠組みや歴史の知識を社会に提供できるように研究に邁進していきたい。

津山 美穂

近畿大学 理工学部 助教

〔研究課題名〕

プラズマ閉じ込め層を制御した際のレーザーピーニング効果
－ プラズマ閉じ込め媒質の音響インピーダンス制御 －

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金をいただいたことにより購入した物品によって、レーザーの照射条件や対象材料の幅を広げることができました。様々な分野や状況への応用を目標としているため、実験の幅を広げることはとても重要です。

1年度の御支援のみでも幅を広げることができましたし、今後の展開への足掛かりとなりました。

レーザーピーニングの今後の展開として、核融合炉をはじめとした真空中等、液体を用いることの困難な状況への応用を目標としております。実現のためには長期的な実験研究が必要となります。

以上より、今回御支援いただいたことに感謝するとともに、長期的な御支援の機会をいただけますと幸いです。

最後になりましたが、2019年度に奨励金をいただいたことにより、研究を進めることができました。

誠にありがとうございました。

堀田 芙美香

近畿大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

マイボーム腺組織所見とマイボグラフィ像との比較検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

将来的に、非侵襲的なマイボグラフィ検査によって、生体内で生じている変化を正確に把握することが可能になれば、今までマイボーム腺異常によって発症すると考えられていた疾患（ドライアイ、マイボーム腺炎関連角膜上皮症、等）についての理解が深まり、新たな治療法の開発につながる可能性があると考えている。

最後に、今回、本奨励金をご寄付いただいた支援者の方々に深く御礼申し上げます。

本研究を遂行したことにより、マイボーム腺に関する理解が深まった。

日々の診療への応用や新たな研究の着想に繋げたい。

木野 仁美

大阪千代田短期大学 幼児教育学科 講師

〔研究課題名〕

明確な問題を持たない親子への子育て支援の方略の探索的検討

—小さな困りごと悩みと親への寄り添い—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究に取り組んで、さらに保護者への聴き取り調査や質問紙調査に取り組む直前であった1月末から2月初旬ごろ新型コロナウイルスの蔓延が懸念され始め、そしてあっという間に、私たちはこれまで経験をしたことのない日々に見舞われました。自粛生活から新しい生活様式へとわずかの間に私たちの日常が変化していています。研究活動においても、それは同様のことが起き、人と対面で協働して何かをすることも今まで通りとはいかなくなりました。この変化は当然子育てにも大きな影響を及ぼしています。地域での自然なコミュニティでの子育て環境が、時代の流れや働き方、暮らし方とともに変化して、子どもを育てるためのつながりを子育て支援という仕組みで支える必要性が求められ、様々な方略で取り組まれるようになっていふんと時間が経ちましたが、これからはさらに変化し、子育て支援のあり方も今後また大きく変わっていくことが容易に想像されるようになりました。本研究で対象とした、「普通」の子育ての在り方も、大きく変わっていくものと考えられます。人との対面でのかかわりの制限が求められる中で、小さな困りごとや疑問への対応方法の在り方も、さらに深めていかなければならないのではないかと考えられます。

子どもの月齢、年齢によって保護者の関心や困りごとが変化するという事は、保護者自身も発達しようとしているからです。より良い方向へ発達を遂げていけるように、新しい生活様式の中での新しい子育て支援のあり方について、親と子の相互作用の観点から今後は、研究活動を行っていきたいと考えております。

高田 勝子

奈良学園大学 保健医療学部 講師

〔研究課題名〕

母親の子ども認識と母子相互作用の脳神経メカニズムの解明
—ヒトの脳磁図研究—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

女性が妊娠し、出産を経て子育てと共に家族を形成していく過程は、メンタルヘルスの基盤となる家族機能の重要性が言われている。そして、親子・夫婦の虐待、妊産婦の自殺の社会問題の背景には、生育環境、ストレス、精神的疲労感なども関与していることが考えられる。

私は本奨励金を受けた研究を遂行したことにより、多くの方が身近な社会問題に関心を持てることを願う。

そして、弱い立場の人に手を差し伸べることができる社会を作っていきたいと願う。

ありがとうございました。

藤尾 かの子

エリザベト音楽大学 音楽学部 講師

〔研究課題名〕

保育環境の「静けさ」と幼児の協同的音楽活動の相関

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度のご支援を受けることで、モンテッソーリ教育の幼稚園では、モンテッソーリの教育思想のもとで自然な「静けさ」が生成され、幼児が音を注意深く聴きながら音楽的な成長を遂げているということを、客観的なデータのもとで解明することができました。

現在の日本の幼児教育では、幼児が生活の中で出会う環境との相互作用を通して体験を深め、成長・発達していくことが強調されています。その環境のひとつとしての音環境は、幼児がコミュニケーションをとることや、自らの活動に集中して取り組むこと、また、音や声を聴きながら行う音楽活動を実施する上で重要な役割を果たしています。幼児が保育所や幼稚園で快適に生活し、健やかに成長することができるよう、今後も保育における音環境の視点から研究を継続していきたいと考えております。

本研究の遂行にご支援を頂きました、日本私立学校振興・共済事業団とその関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

金平 希

福山大学 人間文化学部 助教

〔研究課題名〕

情緒応答性評価による母子相互作用の強みと脆弱性領域の把握
－ 自閉スペクトラム症の幼児とその母親の様相－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私自身、現在2人の幼児の母親として、育児に奮闘する毎日です。その中でふとした瞬間に、子どもと私のやりとりをEAの枠組みで捉えることがあります。そして、あらためて相互作用とはいずれか一方の働きかけで成立するものではなく相補的であると感じております。

また、私が肯定的な情緒を伴って働きかけると、子ども達はとても嬉しそうな笑顔で反応し、これこそが育児の報酬であると実感しております。一方で、障害やその他様々な要因から、子どもの情緒応答性が妨げられ、報酬が少ない場合、育児とはなんと大変でしんどいものかとも思います。

しかし、今回のご支援をいただき、母子のやりとりを観察させていただいた療育の現場では、多くの母親達は子どもと情緒的にポジティブなやり取りを行っており、あらためて強みに注目することの大切さを実感することができました。

引き続き、ポジティブな母子の情緒的相互作用を構築するための効果的な方略について追及していきたいと思っております。

片岡 雅世

福岡工業大学 社会環境学部 助教

〔研究課題名〕

我が国における同性婚の認容可能性について
－ 国際私法上の公序の観点から －

寄付者の皆様へ〔御礼〕

現在、日本でLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーをはじめとする性的少数者の総称）に該当する人は、8.9%（11人に1人）いるとされています（電通ダイバーシティ・ラボによる「LGBT調査2018」参照）。また、2019年2月には、同性カップル13組26名が札幌、東京、名古屋、大阪の各裁判所に同性婚を認めない現行法は違憲であるとして、国家賠償請求訴訟を提起しました（後に福岡訴訟も追加）。一方で、同性婚等を認める国・地域は約30カ国・地域に及び（2020年7月時点）、年々増加傾向にあります。本研究は、このような状況の下、日本で同性婚等を希望する人に対して何らかの救済・解決を図ることはできないかという思いから、まずは外国法に基づいて成立した同性婚等の我が国における有効性を検討しました。

近年、「家族の多様化」が指摘されていますが、本研究における基本的な考え方は、他の新たな家族関係にも応用することができるのではないかと考えています。本奨励金は、このような新たなチャレンジへの第一歩を支援する貴重なものです。今後さらに研究を進め、法の助力を必要とする少数（弱）者の一助になるべく精進してまいります。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

宮本 彩

長崎国際大学 人間社会学部 助教

〔研究課題名〕

アンプティサッカーの動作の習得・習熟法の構築



写真：体験会の様子

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私が主領域とするスポーツ科学では、研究者が追い求める学術的に価値があるとされるデータと競技者やコーチが求めるデータとの間に乖離が存在しています。競技者やコーチから「研究者は課題を提示するけれど、解決に向けた労力までは注いでくれない。」と厳しい指摘を受けたこともあります。また、取り組めば取り組むほど「障がい者スポーツの競技力向上と競技普及において研究者が果たせる役割は何なのだろうか？」と自問自答する日々が続いています。この問いに対する答えは、一生追い求めていくことになるのかもしれませんが、今後、この研究を進めていくためには、細分化された研究領域内での探求だけでなく、多角的な視点に立ち、探求していくことが必要になってくることを実感しています。

本奨励金の助成は、学術的な追求のみならず、多様で特色あるチャレンジングな研究にご支援していただけるということで、研究の主領域（自然科学）にとらわれず、質的研究（人文科学）に挑戦することができました。本研究において、競技者やコーチとの意見交換や練習の実態調査を実施できたことで、これまでの研究の仮説や前提を問い直すとともに、研究課題の再認識と新たな創造につなげることができました。特にこれまで競技者のみに主眼をおいて研究を進めてきましたが、コーチへの情報提供の必要性を認識することができました。そして、実践に役立つ“意味ある情報”へと研究成果（エビデンス）を統合していくための方策にも挑んでいきたいと思うようになりました。

本奨励金のような“チャレンジングな研究に対する支援”は、日本の科学研究力の向上につながっていくものと確信しております。私自身も、本奨励金でのご支援に応えられるよう、さらに研究に邁進していきます。

岩崎 千恵

長崎短期大学 国際コミュニケーション学科 講師

〔研究課題名〕

リテラシーの向上を目的とした多読教育の実践研究
－内発的動機付けを支援する読書活動とその効果－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

新型コロナが感染拡大している中で、留学生などの外国にルーツを持つ人々は非常に困難な状況に置かれてしまいました。ある種の被災ともいえる状況の下、これらの人々が命を守ることができるような日本語のリテラシー教育が必要であると考えています。

今回のご支援により、学会や研修会へ参加できたことで多くの研究者からご意見や示唆をいただいただけでなく、言語を交えることの大切さを改めて実感しました。

人間社会における言語がもつ社会的意義や価値は多様化しているものの、私はやはり、言語の価値を信じているからこそ、言語教育と共生社会の在り方に関して今後も研究の歩みを止めないよう進んでいきたいと思っております。

心より感謝申し上げます。

今後とも、ご支援の程よろしく願いいたします。

佐藤 由佳

志學館大学 法学部 助教

〔研究課題名〕

鹿児島県内の市町村における地域防災の現状に関する研究
－実効性ある災害対策法制の整備のための基礎研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

防災対策は国及び自治体だけで行うことは困難であり、企業や住民などすべての人が問題意識をもって取り組むべき課題です。近年では自助・共助・公助の考えが提唱されていますが、自助及び共助に関しては地域および個人によって認識の差が大きく、その背景には、公助に対する過度の期待と防災に対する認識不足があるように思われます。本研究をはじめとして、今後の研究により企業や住民の皆様が公助の現状を知り、一人ひとりが自らできることは何かを考え・認識するきっかけになればと考えております。

今回、奨励金を配付していただいたことで以前から構想しておりました本研究を始めることが可能となりました。ご支援いただいた日本私立学校振興・共済事業団の関係者様ならびに奨励金をご寄付いただいた皆様には心より御礼申し上げます。

本研究では、初めて一人で社会調査を行うこととなり、災害対策に関する知見だけでなく社会調査に関する知見についても得ることができました。これらの知見と経験を活かし、今後も研究に励んでいく所存でございますので、これからも変わらぬご支援、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。